

多くの方々に一読することをすすめるとともに、ひろく活用されることを祈ってやまない。

A5判・二六五頁・発行所、東京都千代田区神保町二
の二、株式会社ピタカ・二三〇〇円。

△宮川 了篤▽

編集後記

▽「現代宗教研究」は、「所報」として創刊されて以来、早くも第十三号を数えるに至りました。通常、一年に一冊の発行ですから、十三年間に及ぶ研究内容が本誌には集録されていることとなります。最近、日蓮聖人第七百遠忌を当面の目標に、目下△日蓮聖人の報恩観▽を研究テーマの中心にすえ「恩の構造」を特集してきました。▽今号においても、報恩の教化活動の具体化を通して提示された内容を掲載しました。同時に、日蓮聖人が身をささげて願業として刻印された諫暁・誓願・立正安国の教えなどとの関連の中で、この報恩精神をとらえることが必要であり、真の報恩は諫暁・誓願・立正安国の信仰実践にむかうものでなければならぬとの観点から、その第一歩として△諫暁と報恩▽を特集しました。▽また、近年「教化研究会議」などにおいて宗教法人法と寺檀関係のあり方について討議されることが多くなりましたので、今回宗教法に関する論文を掲載しました。今後、この問題はきわめて重大な事柄としてクローズアップされる可能性が強いと思われまますので、大方の一読をお願いいたします。▽教研会議、研究ノートは、今年度の研究活動の一端を示すものです。現在、研究員による統一した共同研究として△教団論―その歴史と展望▽に取組んでいますので、次号以降にはその集約された研究成果を発表したいと念願しています。▽今号では、研究書の紹介にいく分ページ数をさいて掲載しました。たんなる図書紹介ではなく、研究書を読んだ内容理解をふくめてまとめてみました▽「現代宗教研究」について、ひき続きご叱正、ご教示のほどお願いします。△石▽